



命より電気が大事？ 大飯原発の再稼働はダメ！



5月30日、野田首相は大飯原発の再稼働を最終判断すると表明しました。福島原発事故の原因も究明されておらず、大飯原発の安全確認も不十分なまま、国民の過半数が再稼働に反対しているにもかかわらず、経済界の圧力で原発再稼働がゴリ押しされようとしています。万一、事故が起こったら誰が責任を取るのでしょうか？誰も責任を取らないことは、福島原発事故で証明済みです。しかし、あきらめるのはまだ早い！あなたの声を、政府へ、京都府へ、向日市へ届けてください。将来の世代へ原発の危険のツケ回しをさせないため、私も頑張ります！（杉谷伸夫）

みんなでチェックしました！ JR「向日町」駅のバリアフリー改修計画

市民待望の本計画について、5月25日にJRが計画案を公表し、6月4日までに市民意見の募集をしました。ところが、公表された内容は情報がほんのわずか。エレベーター・通路・トイレなどの位置が記載されているだけです。

先立つ5月12日（土）に、3月の議会に提出されたJR向日町駅のバリアフリー改修計画案（少しだけ詳しい内容を記載）を基に、検討会をもちました。予想していたより多くの疑問や意見が出されました。JRと向日市に提出しました。

＜出された主な意見＞

- エレベーターは車椅子2台が十分乗れるように、11人用でなく阪急と同じ13人用にして！
- エレベーター利用者専用跨線橋の通路は人が少ないので、夕方以降うすら寂しくなる。女性1人では怖いのでは？

- トイレスペースが、現在より外部に大きく飛び出すので、駅の北側から来る歩行者の妨げになる。トイレの配置を90度振って、飛び出しを少なくしては？



- 女子トイレの方が狭く、定員が少ない。男女共用の多機能トイレを男子側にずらして、女子トイレの定員を増やすべきではないか？
- 改札からトイレに行く通路の幅が狭くないか？幅1.8mを確保してほしい。
- 検討チームに障がい者を入れるべきだ。自分が入っても良い。

連絡先

TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-932-1325

メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



杉谷議員の一般質問は8日午後3時以降の見込み

議会に提案された議案の中から2件を紹介。

●入管法・住民基本台帳法等の改正の施行に伴う向日市条例の改正案

外国人登録制度が廃止され、在留外国人の方も住民基本台帳法の適用対象に加わります。それに関連する向日市の条例改正の提案です。

●北野台雨水貯留槽の施行不良による損害賠償の金額と訴えの相手を追加することについて

損害賠償請求金額を約8,659万円から1億4,898万円に増額し、また訴えの相手として下請け会社3社を追加することの議決提案がされました。

★議会に提出された主な議案が、ホームページで閲覧できるようになりました！

3月議会で、私が「議会への提案は市民への提案。市民がわかるように提案し、また議案はすべて市のホームページに掲載して、誰でも見られるように」と求めていたものです。

ホーム [0]→市議会 [1]→議案・議決結果 [2]→向日市議会平成24年第2回定例会 に掲載されています。

しかし掲載されたことが市民に伝わらないようでは困ります。また議案の説明はまだ未実施です。これらの点は更に改善を求めていきます。

杉谷伸夫の議会報告

～一般質問の予定～

6/8(金)午後3時～5時頃の見込み

1. 市民参加の時代に合わせ、公民館の使用制限の見直しを

議員報告会としての公民館の使用申し込みが不許可とされたことに対して、私が行った不服審査請求について、教育委員会は、議員の特殊性を根拠に使用制限の正当性を主張しました。しかし現実には、一般市民の使用に対しても「政治的な活動である」として相当広く使用制限を行ってきました。私自身、一市民として何度も経験しています。

これからのまちづくりにおいて、市民参加の拡大が重要になってきている中で、できる限り公的施設を市民が自由活発に使えるようにしていくことが望まれます。公民館と政治の問題について、社会の流れは制限をなくし自由使用を広げていく方向です。また議会全体としても今後、議会報告会を公民館等で開催していこうという方向になっています。これからの市民参加の時代に合った、公民館利用のあり方へ見直しが必要ではないでしょうか。

2. 大阪府で中学校給食開始へ！向日市でも検討を始めよ

「中学校でも給食があればいいのに！」—中学生を持つ保護者の多くの思いです。でも、京都や大阪では、昔から中学校に行けば「給食はないのが当たり前」だったので、仕方ないとあきらめていたのが実状でしょう。しかし、全国的には中学校給食は「有るのが当たり前」。給食がないのは、大阪・神奈川と京阪神の一部自治体に集中しています。

ところが、京都市が「弁当方式」の学校給食を始めたのに続き、給食実施率全国最下位の大阪府で、全市町村が今後5年以内の中学校の完全給食実施にむけ、事業をスタートしました。

一方向向日市では検討を進めていません。その最大の理由は、「多額の設備投資の財源」です。

そこで大いに参考になるのが、大阪府高槻市で今年秋から始まる「親子方式」による給食事業です。これはすでに自校方式で給食をおこなっている小学校の給食調理場を改修して、近隣中学校の分も調理し、配達する方式です。既設の小学校の給食調理場を改修して実施するため新たな給食調理場の建設を必要とせず、初期設備投資が自校方式に比べて格段に少なく済みます。高槻市では今秋2校の試行をふまえ、2014年度までに市内18の全校で実施する予定です。

高槻市の親子方式をはじめ大阪府で全面実施に向けて取り組みが始まった中学校給食事業について、しっかりとした調査検討を行ない、向日市での中学校給食事業の検討に着手すべきではないでしょうか。

3. 原発に頼らない地域社会づくりを

①大飯原発の再稼働問題について

政府は大飯原発の再稼働を強行しようとしています。しかし山田・京都府知事、嘉田・滋賀県知事は、万一の事故の際に甚大な被害を受ける京都府や滋賀県も地元であるとの考えを繰り返し表明し、また原発の安全性はまだ確認されていないと懸念を表明しています。久嶋市長は、現在の状況をどのように評価していますか？

②この夏の節電施策について

世論調査によると、国民の過半数は大飯原発の再稼働に「反対」であり、この夏の節電による不自由は「がまんできる」と答えています。この機会に大幅な節電を進めることは、とても重要なことです。この夏の節電は、行政が率先して取り組むと同時に、これからの省エネ・省電力の社会づくりにむけて、地域全体で、但し無理なく取り組むことが必要です。

- ・向日市の節電について、昨年実績と今年目標を問います。
- ・行政内部だけでなく、地域全体での節電促進について、現在考えている方策は？

③原発に頼らない地域社会づくりについて

大幅な節電とコストダウンを図るため、古い設備を新しい省電力タイプの設備に切り替えることが注目され、各地の自治体でも導入が進められつつあります。向日市での検討状況と今後の計画を問います。

4. 市民の知る権利に応える行政施策の推進を

市民の知る権利の保障の第一歩は、行政情報の積極的な公開です。そして市民への情報伝達にとって、現在最も有力な手段は「広報」であり、情報量と速報性・双方向性で大きな役割を期待できるのが「インターネット」による情報発信です。

①広報の活用について

現状の広報「むこう」に、少し物足りなさを感じるのには、内容の多くが「事務的なお知らせ」であることが一つの原因ではないかと思えます。やはり、市民が親しみをもって接するには、読み物的な要素や地域の市民とのふれあいを感じられる要素が大切です。また市民の声、意見、疑問、提案や行政の考えなど、「決定事項の伝達」に留まらない双方向性が、広報においても必要だと考えます。例えばこの夏の節電特集を組んで「我が家の節電対策」を募集し、掲載していくなど、紙面づくりにも市民参加を取り入れていってはどうか？広報紙の改革・改善の考えを問います。

②インターネットの活用について

向日市のホームページは、「まちの情報を市民に伝える」「市民の声を反映する」という点では、大きく改善の余地があると思えます。

ホームページを始め、インターネット活用に関する今後の考えを問います。

杉谷伸夫の活動日誌（5月）

- 5月1日(火) 京都ユニオンメーデーに参加
- 2日(水) 原発再稼働反対・30キロ圏内自治体要請（舞鶴・綾部・南丹市）
- 5日(土) 関西電力本社前座り込みに参加
- 12日(土) 市民参加でまちをつくる会・5月例会
東日本大震災復興支援コンサートに参加（向日市民会館）
- 14-18日 議員自主研修（大津市・市町村カデミー）
- 19日(土) 京都・市民放射能測定所オープン式典参加
- 20日(日) 原発を問う民衆法廷に参加（郡山市）
- 21日(月) 福島・市民放射能測定所を訪問（福島市）
- 24日(木) 中学校給食事業を行政視察（高槻市）
- 27日(日) 新入管法説明・学習会に参加（高槻市）
- 29日(火) 向日市議会6月定例会・第1日目

6/9 市民参加でまちをつくる会

- 日時：6月9日（土）10時～12時
 - 場所：杉谷ひろば（下図）
 - テーマ：「市民の視点で議会を変える」
 - 参加費：100円（資料代）
- ※ どなたでも参加できます。事前連絡不要。



小畑川の カワセミはどこへ

向日市の西側を流れる小畑川。残念ながら一文橋の辺りしか向日市にかかっているが、私にとっては、ジョギングで日常のストレスを解消する身近な川である。四季にあわせて、木々はいろいろな彩りを見せ、また、土手の小さな畑には、暮らす人の工夫で、様々な野菜などの実りをみることができる。そして、川中では、サギやカワウ、カモなどのいろいろな鳥たちに会うことができる。特に心躍ったのは、カワセミの存在である。川に沿って生えている木々をわたっていく姿に、改めてこの川の自然の豊かさを感じたものだった。時折、カメラを構えて

シャッターチャンスをおねらっている人を見かけたが、たぶんカワセミが立ち寄る木々を知っていたんだろうと後に気がついた。

この頃その人たちを見かけなくなった。実は川で工事が始まり、カワセミがとまっていたであろう木々が根こそぎなくなったのである。その上、「カンナ砂州」と私が名付けたカンナの大群があった場所もその工事ですべて取り払われてしまった。カワセミは、どこへいったのだろうか。砂の中の亀はどこへいったのだろうか。



(小畑川で撮影したものではない)

に備えてのこととは思いますが、もう少しやり方を考えられなかったであろうか。川に沿う違うルートを見つけて、カワセミがやってくるのをまた見たいと願う今日この頃である。(M)

声

関西電力は節電のためか夜（11 PM～7 AM）の電気料金を安くするが昼の電気料金を割高にする方式を勧めている。しかしこれは昼間の節電を強制するように思えるので、登録は止めておこうと思う。むしろ各種の自動販売機の数少なくする運動とか、夜間のテレビ放映を止めるとかの方が良いのではないのでしょうか。(Y)

声

私は身体障がい者です。私のような、事故による障害者も増えていると思います。しかし今の社会は、障がい者が働く意欲があっても、なかなか雇ってもらえません。誰もが、いつ障害者になるかわかりません。行政は、車椅子や補装具なども、障がい者が働き続けるために必要なものとして認め、支援をしっかりと行って欲しいと思います。(Y)

連載 ポイント解説

向日市の歴史

鈴木 健弘

第9回 もずめ 物集女（その2）

歴史家の意見として、乙訓の物集郷が和泉の土師氏族と関係があるとするのは、所々に見られるモズメの呼称が前提にあっても、物集女とは関連付けにくい。喪に服して謹慎する、モ(喪)のツメ(詰)ーモズメ(喪詰)を語源とし、死者の慰霊を祭り鎮めるために、葬祭の諸事に当たったということに本来の意味を持つとされている。

一方、諸々理由があつたとしても本来地名と

してよりも、当地に砦(物集女城)を構え荘園の面影をもつここに、物集(もずめ)氏の存在が強いように考えられる。しかし、大坂百舌鳥の土師氏の移住説もいまだに根強く生きているようである。

戦国時代の試練を経て、もと都の名を止める長岡京も徐々にその影を失いながら、西国へと繋がる重要な街道としてそれなりの名を広げて行く。向日明神を取り巻く集落、それを取り巻く周辺の田園地帯、しかし、神社前から西国街道を北へ分かれる愛宕道のそこに広がる物集一族の領地は、地名のみを残して関東へ退散する。領主無き一族の歴史から消えて行くさまは、想像の域を出ないが、今も関東に物集氏を名乗る僅かな家族が住まいすることを聞いているが、特異な名ゆえのニュースをとなるのであろうか。

物集女と言うこの特異な地名をもう少し暖かい目で見守ってやりたいと願う。